ＤＩＹで楽しみながら学校を便利にしましょう。

乙部町立明和小学校　教頭　佐々木　朗

１　はじめに

私は、根っからの工作好きである。子どもの頃から、工作用紙、木のコッパと釘、モーターとギア、そして小学校高学年からは、もっぱら半田ごて、テスターが必需品というようなマニアックな子どもであった。電気が好きで得意というのが、アマチュア無線につながり、そしてコンピュータにつながっているのだから、子どもの頃、いわゆる「ラジオ博士」（今で言う「オタク」）と呼ばれたが、それは、ほめ言葉としてとらえておくことにする。

さて、本校に来てから、まだ工作の芽が再び育ってきた。電動ドライバーから始まって、ドリル、丸のこ、カンナ、サンダー、グラインダーと電動工具が増えてきた。最近は、木工などのＤＩＹの楽しさにはまっている。最近必要にせまらせて製作した３つの作品を紹介する。

１ 水噴出装置付き窓ふき

学校の窓掃除をする時は、長い柄のついたスポンジワイパーとバケツがセットであった。特に柄が長くなると、上げて拭いたり、降ろして水につけたりと、腕も疲れてくる。

何とか水が、自動的にでないかということで、噴霧器と窓ふきワイパーを合体させた。

圧縮空気を使う除草剤散布器（1000円程度）に交換用スポンジ付き窓ふきワイパー（600円程度）を用意した。水の制御レバーは、噴霧器のレバーをそのまま使い、レバーとワイパーを合体させた。この想定していない使われ方をする時に、ぐらぐらしないように確実に留めるのは、長年やってきた「職人技（？）」である。水の吹き出し口は、パイプに小さな穴を２方向に開けた。先端は、ねじを接着剤で留めて、ふさいだ。

実際にタンクを肩に背負い、二階の窓を中から手を出して拭いてみた。それまでは、ス

ポンジを一回一回バケツにつけながらやっていたので、時間はかかるし、回りは水浸しになってしまったが、面白いように水がでて、あっという間に楽しみなら、窓掃除ができた。私は、「明和君１号」と名付けた。

その１週間後、やっぱり長い柄のバージョンも作ろうと、柄付きのワイパーを買ってきた。1600 円ぐらい。「どうやってレバーをつけようか」と楽しみながら悩み、水道管を留めるアダプターを利用することにした。棒とレバーが一体化していなので、操作しづらいといえば確かにそうだが、実際の使い心地としてはさほど悪くなかった。心配なことはもう一つあった。柄を伸ばした時の水圧は大丈夫か。先端まで水が届くかどうか。強気でいけば大丈夫。一番伸ばしても水は勢いよく吹き出た。「明和君２号」と名付けた。

手の届くところは１号で、高いところは２号で、と海に面した高台に位置する本校にとっては、手前味噌ながら、とても使えるグッズができたと思う。

興味がありましたら、安価でできるので、挑戦してほしいと思う。

２ 逆上がり練習台

小学生のうちに必ずできるようにしてあげたいと私が勝手にこだわっているのが逆上がり。私の高校時代の苦い思い出の中で、「練習すれば必ず結果がでる。やればできる。」を学んだのは、鉄棒の「蹴上がり」であった。

以前勤めていた学校には、練習台があった。この学校にはなかった。ベルトも試してみたが、はやり練習台にはかないそうもない。買うと数万円もする。

ゴールデンウィーク中のことである。学校で仕事をしていると、受け持ちの一年生の女の子がお母さんと一緒にグラウンドの鉄棒で逆上がりを練習している。コンパネを持っていって練習につきあってあげた。

「あれ、つくれないかなあ。」私は、教材カタログを見て、設計図も何もなしに、思いつくままコンパネを曲線に切って、「何とかなるさ」の精神で製作にかかった。その日の午後である。

夕方には、それらし

き形に仕上がった。木で作ったので、それだけでは、子どもの蹴る力で動いてしまう。次の日、チェーンを買ってきて、鉄棒に固定して位置を調整するようにした。

さっそく、受け持ちの子どもたちに、やらせてみた。練習台を使うと、おもしろいようにトントントンと駆け上がって、逆上がりができた。

子どもたちの逆上がり熱は一気に上がって、休み時間の度に逆上がりの練習をするようになった。忘れもしない５月１５日、２年生の男の子が練習台なしにくるりとあがった。とびきりの笑顔である。それに続いて、６月１２日、２年生の女の子も逆上がりができた。残るは１年生。今でも一生懸命逆上がりの練習をしている。

「３人ともできたらパーティーをしよう」という約束を果たす時も近い予感がする。

３ 台形テーブル

本校は小さな学校なので、図書館の専用教室ではなく、２階の一角に図書コーナーを設け、そこに本を整理してある。今までは全て椅子であったが、子どもたちにゆったりと本を読ませようと言うことで、一部に古い畳を敷き、カーペット敷きにした。

そうするとやはりテーブルがほしい。以前勤めていた学校で、６個合わせると台形になるすてきなテーブルがあった。いくらぐらいするかとカタログを見ると、とっても今帰る値段ではない。

「つくっちゃおう。」今度はきちんと設計図を書いて、製作に取り組んだ。天板にはお金をかけたかったが、ここはあるものでがまんということで、コンパネを用いた。その他、足になるところ、支えの木材も全て、倉庫にあった材木を使った。お金をかけたのはニスをぬるところだけ。

ちょっとおしゃれなミニテーブルができました。６個くっつけても、それぞれで離しても使うことができる。

子どもたちがテーブルの前で本を読んでくれるのを見ると、制作者としてはやはり感激がある。

「予算がない→無理」ではなく、「作れないかな」の発想である。物作りの楽しさと教育環境のまさに一石二鳥のＤＩＹであるが。これからも、技術を磨いていくと共に、子どもたちに物作りの楽しさを教えていきたい。